

図書館公開講座を終えて、いただいたご質問にお答えします。
先ずは、たくさんの方に聴講いただきありがとうございます。
講演の際、ニコライ堂の建設に関するご説明の中で、当初お話しする予定でありながら、失念してしまつた事項がございました。以下に、その補足としてお伝えすべき点を記載いたします。

ニコライ堂の竣工は明治24(1891)年、建設費用は24万円でした。同じ頃(明治16(1883)年7月落成)に建設された鹿鳴館の総工費は18万円でしたから、かなり力をかけた建築物といえます。

年代身分	在住	参加形式	質問	回答
1 30代 自営業	東京都	オンライン	御茶ノ水、神田はなぜこの字なのでしょうか？ 誰がこの名前を作ったのか分かりますか？	オチャノミズは高林寺の境内に清澄な湧き「水」があり、これが献上されて徳川家康が「茶」をたてたことから名付けられたとされ、「水」と「茶」は当初から漢字であったと考えられます。「オ」を平仮名にするか漢字にするかは、JR御茶ノ水駅では漢字が使われていますが、一般的な表記はお茶の水と平仮名です。「ノ」に関して、「の、ノ、之」などさまざまな表記が考えられますが、どのように選ばれたのか詳しくはわかりません。カンナは、よく知られるところでは「神に供える田」からきていと言われています。神田美土町(みとしちろう)という町がありすが、伊勢神宮に奉納する稲を栽培する田があったことが由来とされています。誰が命名したのかは不明ですが、江戸時代には御茶之水通り、神田明神が存在していることから、江戸時代には既に使用されていたと考えられます。
2 60代 本学教職員	東京都	来場	震災復興で大きく東京は変わりましたが、仮に次に大きな震災等に東京が見舞われた時に、同じように大きな復興計画が行うことが可能でしょうか？	関東大震災の損害は55億円(当時の価値)と想定され、当時の国家予算15億円の3.7倍にも達する甚大な被害でした。そのため、特別都市計画法にもつき国家レベルでの計画案と予算措置、事業実施が行われました。現在、同じような震災があった場合、耐震化の整備も進んでいることから首都直下地震の被害想定は95兆円(内閣府)とされ、一方、現在の国家予算(一般会計)は、ほぼ100兆円です。併せて、地方分権が進んでいますから、東京では区市町村、東京都が主体となって計画立案と事業実施を行うものと考えられます。全体調整は東京都が担うものと考えられますが、復興計画を強力に牽引する指導者(政治家)も出てこないでしょう。大きな復興計画というよりは、被災した施設を復旧させ、被災前の状態にまずは戻すような整備が行われるのではないかと考えます。
3 50代 会社員	東京都	オンライン	お茶の水界隈には古くからの病院も多くあると思います。都市計画上、積極的に誘致した経緯などはあるのでしょうか？	お茶の水には、順天堂大学医院、東京医科歯科大学病院(現・東京科学大学医学部)、杏雲堂病院、日本大病院など医療施設も多くありますが、順天堂が現在地に病院を開いたのは明治8(1875)年です。また、東京大学医学部を卒業後、ドイツに留学して学んだ瀧川春香(まさし)が駿河台に瀧川小児科病院を開院(現在の茗荷通り)に面する瀬川ビル(場所)するのは明治36(1903)年です。このように明治時代から西洋医学によって診療、治療を行う病院が立地し始めました。しかし、神田区(及び現在の千代田区や文京区)が計画的に医療施設を誘致した記録はありません。東京の中心部であること、交通利便性が高かったことから自然に集積したものと考えられます。ただし、病院に行きつくまでの、お茶の水橋の歩道が狭くバリアーが多いことが永年課題となっていました。近年、ようやく歩道拡幅がなされ少し歩きやすくなりました。
4 60代 無職	東京都	来場	①御茶ノ水の杏雲堂病院は、大久保彦左衛門の住居跡地、その他にも、明治大、甲斐大、日大などの古い大学は、歴史的人物との関係はあるのでしょうか？何か歴史と関連付けたことをお知りであれば教えてください。 ②愛宕山が都内一番高く27mほどだそうです。神田山は削る前はどのくらいだったか分かりますでしょうか？	①病院も大学もその敷地は一定規模以上が必要です。お茶の水には武家屋敷を引き継ぐ広大な面積を持つ邸宅が沢山ありました。大久保彦左衛門は幕府の命により、昭和台に移り住みましたが、江戸時代には武家を自由に転居させられる規模の邸宅が多くあったというところかと思えます。なお、日本大学に關しては、明治22(1889)年の大日本帝国憲法公布に合わせて、皇典講究所(現・飯田橋3-5)が国法科を設立し、日本法律を中心に研究がなされました。この皇典講究所は皇國學院大学、夜間日本大学が開校されたという歴史があります。 ②削る前の神田山の高さの正確な記録はありませんが、地形からみて20~30メートルであったと推測されます。
5 60代 会社員	千葉県	来場	日本橋から淡路町界隈までの道路の方角は、正確な東西南北とは異なって、北西から南東に向かうものと、それに直するものから成り立っています。この理由はどのようなことによるのでしょうか？	江戸初期のまちづくりでは日本橋を起点として道路整備が考えられました(五街道)。日本橋においては、江戸時代のメインストリートとして、ます本町通り(東西)が整備され、メインストリートの役割のちに日本橋通り(南北)に移っていききました。この直角に交わる2つの通りと平行となるよう道路(町割り)がつけられていきました。メインストリートは道幅は約12メートル、通りの両側に幅・奥行とも約120メートルの町地を区割りし、ここに商人、町人を居住させました。この基準となった本町通りの延長上に江戸城が臨めるような角度にしたと言われています。
6 60代 公務員	千葉県	来場	「まち」と「ちょう」の読み方について、武家地と町人地のちがいがいとお話がありました。なぜそうなったのか、また、それは江戸以外の城下町にも当てはまるのか、教えてください。	江戸では武家地と町人地(町地)の地域を厳密にわけて計画されました。もともと武家地には具体的な町名はなく「まち」と呼んでいました。町人地(町地、ちょう)は初めから「ちょう」として具体的な町名が付けられたようです。大阪でも「ちょう」と「まち」の区分は同じような傾向にあるようですが、全国的には地域ごとの特徴もあり、一概には答えられないでしょう。
7 40代 自営業	東京都	来場	都市計画は歴史と関係性が深いというお話し興味深く拝聴いたしました。過去の流れを踏まえての開発が必要という点ですが、実際に都市開発計画を企画する場合、未来においてはどの程度の時間を考慮しているのが現状でしょうか？ 昨今の生活様式の急激な変化や、技術の進化、資源問題等踏まえると、どのくらいの時間を考慮して設計することが可能なかが疑問に思いました。	例えば六本木ヒルズでは、再開発の発意があったから、約500名の権利者の合意のあとに計画、設計が行われ、事業が完了するまで17年かかりました。規模や場所にもよりますが、通常、再開発の企画を立ててから完成までに10年ぐらいいかかってしまっています。ご指摘のように今日では時代の変化が早く、将来予測は困難ですが、完成するころのニーズを見込んで最低10年、場合によっては20年ぐらいいまで見通すことが必要とされているようです。
8		来場	市電の延伸と都市の発展の関係について	ご指摘のように都市の交通計画(路線の延伸)と都市の発展は密接な関係があると思います。東京市の人口は明治末期には160万人、大正期には200万人、東京府全体では大正期に400万人、昭和初期には500万人と世界第2位の大都市に成長していますから、市民の定住として市電が重要だと考えられます。市電の前身は明治18(1882)年に開業した馬車鉄道(私鉄)で、新橋から浅草をつないだようでした。これは東京府内の人口が急激に増加し、ターミナルをつなぐ市内の輸送機関が必要になったためと考えられます。明治36(1903)年には馬車鉄道から電車鉄道へ転換し、電停の間隔なども工夫され、利便性の高い都市交通として、非常にうまく利用され、鉄道会社も増えて東京市内各地点を結ぶようになります。東京市が鉄道会社から路線を買収して東京市電となるのは明治44(1911)年です。路線の延伸などはWEBサイトで確認できますので探してみてください。(例えば - http://todon.la.cocoon.jp/line/map_line.html など)
9		来場	震災復興で開設された本郷通りが、直線ではなく、やや曲げられた形になったのはなぜか	これは当時の復興事業を主導した、帝都復興院土木局長の太田圓三の記録や、都市計画地方委員会の記録などを探らなければ本郷とところは分かりませんが、本郷通りを直線と伸ばすと、岩崎邸の中央部、湯島聖堂上に道路が通ってしまうことから、既存の重要な物件をできるだけ避けるために曲げられたのではないかと推察されます。折を見て上述資料を確認したいと思います。
10		来場	カンダ・オチャノミズで見るとお茶ノ水駅	ニコライ堂と御茶ノ水駅とお答えしました。ニコライ堂は関東大震災で被害を受け、大幅に形態が変わってしまいました。ドームの崩壊、内部の焼失、鐘樓の高さの半減など残念な部分も多いですが、昭和4(1929)年、岡田信一郎の設計で修復されました。岡田は早稲田大学や東京美術学校で教授を務めたプロフェッサーアーキテクトで、鳩山一郎(現・鳩山会館1924年)、歌舞伎座(1924年・現存せず)、東京府美術館(後の東京都美術館1926年・現存せず)、明治生命館(1934年)などを手がけ、歴史的な建築様式を用いた設計を得意としていました。ニコライ堂もその威容を損なわずに修復されたものと思います。御茶ノ水駅は線路上部に駅舎と店舗がら附建で建設されています。線路の上に人工地盤を建設するために、神田川に作業用の橋脚を建設して工事が行われています。令和8年2月に御茶ノ水駅が完成すると、その後1年ぐらいいかけては橋脚の撤去と整備が行われる予定です。その頃は御茶ノ水駅のテラスからの神田川の渓谷の眺め(茗茶、小赤壁)は非常に美しい景色として見ることができるといいます。神保町交差点に立つ岩波神保町ビルにはかつて岩波ホール(令和4(2022)年7月29日閉館)がありましたが、1階のSUIT SELECTも令和7年7月21日で閉店することになりました。現在、建物を所有する住友商事が再開発の計画を進めているようです。私も最近知ったのですがこのビルは、声原建築設計研究所(声原義信氏)の設計によるものです。銀座のソニービルも建設されてしまいましたが、声原氏の設計は優雅さと上品さを兼ね備えています。いつ取り壊しが始まるのか分かりませんが、できれば早めにしておかれることをお勧めします。
11		来場	都市計画・都市デザインと本講の内容との関係について	大学の講義では都市計画法にもとづく都市計画(都市をより良くしていく方法)や産業革命以降の都市プロジェクトの紹介、都市と建築のつながりなどを重点に話しています。都市の歴史の話がないわけはありませんが、本講演のように都市の一部(限定的な地域)をとらえてその変遷、変化を調べたり、整理したりするのはほとんど趣味の領域に近いです。ただし、本講演ではあまり触れませんでした。今日の東京は江戸時代から続く、歴史・文化、震災・戦災からの復興、都市を成長させようとしたプロジェクトなど、過去からの積み重ねで成っていることは確かです。このことを知ったうえで、これからの東京のあり方や再開発を考えていくことは重要です。その点において、大学の講義でもあまりディープにならない範囲でカンダ・オチャノミズの歴史を知ってもらう機会も設けています。